

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【福島県】

学校名【福島県立会津支援学校】

1 実践テーマ	① ・ Ⅱ ・ Ⅲ ・ Ⅳ ・ Ⅴ（複数選択可）									
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	<table border="0"> <tr> <td>高等部</td> <td>80名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中学部</td> <td>5名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小学部4～6年</td> <td>41名</td> <td>計 126名</td> </tr> </table>	高等部	80名		中学部	5名		小学部4～6年	41名	計 126名
高等部	80名									
中学部	5名									
小学部4～6年	41名	計 126名								
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名【保健体育科 総合的な学習の時間（高等部）】 【生活単元学習 総合的な学習の時間（中学部）】 【体育・交流学習（小学部）】 ② 行事名【学園祭（パワー祭り）広報活動】 ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）									
4 目 標 (ねらい)	・2021年オリンピック・パラリンピック競技の開催地として多様な文化を受け入れて、人々が互いに人権を尊重し合い、共生社会の実現を目指すため、障がい者スポーツの体験学習及び実技講習会を実施し、理念を具現化する。 ・会津のレガシー（文化や伝統）を一人一人の心に継承する活動を目指していくこと。									
5 取組内容	・オリパラ推進委員会では、当初2年間、本校の生徒や教員、他校の生徒との交流学习を中心に、障がい者スポーツであるボッチャ競技について講習会や競技の実践をとおして、地域に向けて発信しながら障がい者スポーツの理解と共生社会の実現に向けた取り組みを行ってきた。昨年度は、コロナ禍により、「地元・地域を知る」、「会津の伝統競技を体験し、地元のレガシーに触れる」活動を行った。 今年度にあたっては、コロナ禍の状況を鑑みながら、3密を避けながら昨年度に引き続き「会津のレガシー（文化や伝統）を一人一人の心に継承する活動」を目指していくことを目標として取り組みを行った。 【コロナ禍の対応として】 ① 3密を避けながら、その時々状況を加味して実施 ② 最小の単位（クラスでの実施）を基本として実施。 ③ 集団で行う場合は、体育館などの広いスペースで実施する。									

【小学部】

「体育」「付近の小学校との交流学習」

1) 4年生

体育の時間や、付近の小学校との交流学習を通してボッチャに取り組んだ。児童の実態に合わせてルールを簡略化しながら行った。

(ルール)

- 1 2チームに分かれる
- 2 一人1回投げたら、1回戦終了
- 3 ボールを遠くに投げられない児童は、中心に近いラインから投げて良い

○ 得点の付け方

- ・ ジャックボールに一番近いボール3点、二番目に近いボール2点、3番目に近いボール1点で加点する。(計算は教師が計算する)

2) 5年生

体育の時間や、付近の小学校との交流学習を通してボッチャに取り組んだ。児童の実態に合わせてルールを簡略化しながら行った。



(ルール)

- 1 2チームに分かれる
- 2 一人1回投げたら、1回戦終了

○ 得点の付け方

- ・ ジャックボールに一番近いボールの色のチームが勝ち。



【中学部】

領域教科：生活単元学習

単 元：「会津ボチャリンピック新聞をつくろう」

ク ラ ス：1年3組

テ ー マ：「東京パラリンピックについて調べてみよう」

1) 事前学習

- ・東京オリンピック、パラリンピックが、今年開催されるにあたり、インターネットやパワーポイントなどを利用して、事前学習を行った。
- ・パラリンピックについてクラスで5つのテーマを決めて、調べ学習を行いまとめた。

2) 調べ学習

- ・パラリンピックについて調べたいテーマを下記の5つの中から1つ決めて、調べ学習を行いまとめた。中間報告会を設けながら調べた内容をクラスで共有して進めた。①～⑤について調べた。

①メダルについて

②ボッチャ競技について

③パラリンピックの競技種目について



④パラリンピックテーマの

「We have wings」について

⑤パラリンピックの歴史について

- ・まとめ方については、模造紙に見出しや写真・絵カードなどを貼ったりして、読む人に分かりやすく伝えることを意識して作成した。

3) 発表【学校行事 パワー祭り（文化祭）】

- ・文化祭のリハーサルで中学部全体に発表することができた。
- ・文化祭当日、保護者対象に発表することができた。



【高等部】「地域を知る～伝統文化に触れる～」

○体育「なぎなたを体験しよう」

1) 事前学習

- ・なぎなたのルールや道具についてインターネット上の動画を見て学習した。

2) なぎなたの講師を招き、なぎなたの体験を行った。

① 令和3年10月19日(火)

(10:30～15:00)

② 場所 会津支援学校 体育館

③ 活動内容について

- ・なぎなたの道具について
- ・礼法指導
- ・足さばきや型の実践
- ・2人一組で打ち方や守り方の実践
- ・まとめ



3) 事後学習

- ・活動の振り返り及び講師へのお礼のメッセージ記入。



○総合的な学習の時間「オリンピックについて調べよう」

1) 事前学習

- ・東京オリンピックが延期となり、今年開催されるにあたり、オリンピックについてインターネットやパワーポイントにまとめたものを見て学習した。

2) 4グループに分かれて、オリンピックについて調べたいテーマを決めて、調べ学習を行いまとめた。

中間報告会を設け、各グループの発表を行う。

- ・夏季オリンピックの開催国
- ・夏季オリンピックの競技種目
- ・五輪マークの意味や花紙やちぎり絵等で五輪マーク制作、

東京オリンピックのキャラクターのぬりえ



	・東京オリンピックでの注目選手 ・オリンピックにまつわるトピックス 3) 中間発表 ・各グループで調べたことについてまとめたことを発表する。 4) 冬季オリンピックについて ・冬季オリンピックの開催国 ・冬季オリンピックの競技種目 ・冬季オリンピックでの日本のメダル獲得数 ・冬季オリンピックにまつわるトピックス 5) 発表会 ・各グループで調べたことについてまとめたことを発表する。
6 主な成果	【小学部】 ・ボッチャ競技を継続的に取り組むことで、競技への親しみや関心が深まった。 ・交流学习で競技を行うことで、自然な形で子ども達同士のかかわりが生まれた。 【中学部】 ・まとめにパラリンピックの種目であるボッチャ競技に興味、関心がありクラスで実際にゲームを体験した。ボッチャ競技の歴史やルールなど調べた内容について、ゲームを行い実体験したことでより知識を深めることができた。 ・東京オリンピック、パラリンピック開催にあたり調べ学習を行ったことにより、興味関心が高まり実施期間中においてもテレビなどを見る機会が増えた。 ・相手に分かりやすく伝えること「①文字の色や大きさ、②写真や絵を使用する、③説明の仕方」について意識して取り組むことができた。 【高等部】 ・今回、日本を代表するような地元の講師を招き、実際になぎなたに触れて体験しながら活動できたことで、なぎなたについての興味・関心を深め、理解を進めることができた。 ・2, 3年生については、昨年度から継続して行ったことで、より技能を向上させることができた。 ・オリンピックについて調べ学習を行ったことで、東京オリンピックに興味関心をもつ生徒がいた。また、夏休み期間中のオリンピック開催であったので、テレビでの観戦する生徒がいた。オリンピックに対する関心が以前より高まった生徒も徐々に増えた。一年間を通して、グループで学習を行う形態をとったことで、生徒同士のかかわりも多くなり、協力する姿がより多く見られるようになった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	【小学部】 ・児童が参加しやすいよう、実態に合わせてルールを変えて行った。 (ルールの例) 1 2チームに分かれる 2 一人1回投げたら、1回戦終了 3 ボールを遠くに投げられない児童は、中心に近いラインから



	投げても良い ○ 得点の付け方 ・ ジャックボールに一番近いボール3点、二番目に近いボール2点、3番目に近いボール1点で加点する。(計算は教師が計算する) 【中学部】 ・ 生徒1人1人が興味関心のあるテーマ選びができるように事前学習を丁寧に行った。※TVや動画、写真など ・ 調べ学習を行う際に、ワークシートを用意してメモの取り方を工夫した。 ・ 生徒が分かりやすい言葉や文字に変換し、生徒の言葉で置き換えることができるように取り組んだこと。 ・ クラスの一人一人が調べた知識をクラスの友達と共有しながら学習を進めたこと。(中間発表を入れながら実施したこと。) 【高等部】 ・ なぎなたの第一人者である地元の講師を招聘して、流麗な動きの演武を参観した。それを手本とすることでなぎなたの良さを実感することができた。また、授業の中で体験する時間を多くしたことで、興味関心をもつことができた。 ・ 本校の生徒は、具体的に動くことで理解できるという特性があることを講師に伝え、活動時間をより長くとり工夫をした。その結果、なぎなたへの興味関心が高まった。 ・ 調べ学習を行う際、自分の興味のあるテーマを調べたことで、意欲を持って取り組み、オリンピック・パラリンピックについて興味関心を高めることができた。
8主な課題等	【小学部】 ・ 補助器具が上手く動作しない場合があった。児童が操作することも多いので、今後はより操作しやすい器具を準備する必要がある。 【中学部】 ・ 生徒の文字の読み書きに課題があった。ICTを活用(アイパッドなど)することで、生徒の理解がより深めることができる。※情報機器操作能力を高めること。 【高等部】 ・ 活動時間が限られていたため、さらなる技術習得・興味関心を深めるためには、まとまった時間を確保したり、分けて体験したりする必要があること。 ・ なぎなたの競技の特性から広い活動場所が必要であること。 ・ オリンピック・パラリンピックは4年に1回(夏冬の間隔は2年)のため、興味関心を高く保つための工夫がいること。
9来年度以降の実施予定	【小学部】 ・ パラスポーツに対して引き続き関心をもってもらうためにも、来年度以降もボッチャ競技の道具貸し出しを継続して体育科と連携して行っていきたい。また、視覚支援等も貸し出し用具の中に入れることでより誰でも取り組みやすくしていきたい。

	【中学部】 ・オリンピック、パラリンピック開催後は、生徒の興味関心が高まっていたと感じる。保健体育などの授業に単元としてパラスポーツを取り入れて実際に体験しながら競技の楽しさや面白さを伝えていきたい。 ・競技種目だけでなくアスリートにも着目して、選手の技術や精神力のすばらしさなどを伝え学んでいく機会も必要だと感じた。調べ学習を継続して行うことで、知識を高め、生徒に興味関心をもてるよう取り組んでいきたい。 【高等部】 ・生徒や教員の評価やニーズが高かったことから、次年度以降も継続してなぎなたを体験する機会を設け、地元の文化・レガシーについて理解を深めていく機会を設けていきたい。 ・生徒の実態に応じて、オリンピックに関して調べ学習を行ったり、競技種目を体験したりして、生徒達に興味関心をもてるよう機会を設けていきたい。
--	---